

岡山大学国際バカロレア入試の設計

— 現状と将来 —

上田一郎, 田中克己, 飯塚誠也, 佐竹恭介, Carmen Tamas, 栗原考次
(岡山大学アドミッションセンター)

岡山大学では、2012年度入試より理・医（保健）・工・農学部及びマッチングプログラムコース（MPコース）で国際バカロレア（IB）4月入学入試（定員若干人）を取り入れ、2013年度入試より10月入学入試をMPコース（定員若干人）で導入、更に2015年度入試では全学部及びMPコースで4月入学入試（定員若干人、医学科のみ定員3名）に拡大した。

今後IB入試を更に拡大・発展させていくにはどのような課題があるのか、IB教育を取り入れている国内の高等学校及びインターナショナルスクール（以下IB校という）に実際にアンケートや訪問取材をすることで見えてきた課題等について報告する。

1 はじめに

本IB校調査は、本学が文科省の2014年度大学教育改革加速プログラム（テーマⅢ 入試改革）事業に採択され、その事業の一環として実施したものである。

アンケートは、国内の一条校併設のIB校（以下一条校という）6校とインターナショナルスクール（以下ISという）8校の協力を得た。

本稿は、そのアンケート結果を分析するとともに、可能な限りIB校を訪問し教師や生徒と直接面談してまとめたものである。

2 IB教育の特色

IBは、1968年にスイスの教育財団によって設立された国際バカロレア機構（IBO）が、海外に滞在しながら大学進学をめざす生徒のために、世界共通の教育プログラムを開発したことに始まるが、現在、DP認定校は、世界に2,642校あり、そのうち国内には19校あり、年齢に応じた3つのプログラムで構成されている。（IB認定校数、DP認定校数は、2014年12月1日現在。）

3～12歳：初等教育プログラム（Primary

Years Programme：PYP)

11～16歳：中等教育プログラム（Middle Years Programme：MYP)

16～19歳：ディプロマ・プログラム

（Diploma Programme：DP）。

表1 The IB mission statement（理念）

- ・IBは、異文化理解と尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界の実現のために貢献する、探求心、知識、思いやりのある若者を育てることを目的とする。
- ・この目的を達成するために、IBは、学校や政府、国際機関と協力しながら、チャレンジに満ちた国際教育プログラムと厳格な評価の仕組みの開発に取り組む。
- ・IBプログラムは、世界各地で学ぶ若者たちに向けて、人が持つ違いを違いとして理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれの正しさがあり得ることを認められる人として、生涯にわたって積極的に、共感する心とともに学び続けるよう働きかける。

このうち高校の最後の 2 年間に行われる DP が、大学入学資格として世界的に認められるようになってきている。

IB が掲げる理念は前頁の表 1 の通りであり、IB が目指す学習者像は表 2 の通りである。

表 2 The IB Learner Profile (学習者像)

<p>IB 学習者は、下記のようなよう努力すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Inquirers : 探求する人 ・ Knowledgeable : 知識のある人 ・ Thinkers : 考える人 ・ Communicators : コミュニケーションができる人 ・ Principled : 信念を持つ人 ・ Open-minded : 心を開く人 ・ Caring : 思いやりのある人 ・ Risk-takers : 挑戦する人 ・ Balanced : バランスのとれた人 ・ Reflective : 振り返りができる人

IB でフル DP の資格を取得するには、次の条件を満たす必要がある。

- 1) 課題論文 (Extended Essay : EE) を提出していること。
- 2) 知識の理論 (Theory of Knowledge : TOK) を履修していること。
- 3) 創造性・活動・奉仕 (Creativity・Action・Service: CAS) 活動に参加していること。
- 4) EE と TOK の評価が D 以上であること。
- 5) 次の 6 グループある科目群の各グループから 1 科目を選択し履修していること。
(1 : Studies in language and literature, 2 : Language acquisition, 3 : Individuals & Society, 4 : Science, 5 : Mathematics, 6 : The Arts)
- 6) 3 科目以上を Higher Level (HL) で履修し、それ以外の科目を Standard Level (SL) で履修しており、HL の合計が 12

点以上であること。

HL で 2 点は不可、SL で 2 点は 1 科目まで。

- 7) IB の最終試験のスコアが 45 点満点中 24 点以上であること。

3 IB 入試導入までのプロセスと入試結果

本学では、知識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換していくために、2010 年から IB の教育内容や IB 校の生徒の学力、世界の大学の入試制度等について調査・研究を重ねた結果、表 1、表 2 に示した「IB の理念」、「IB の学習者像」に沿って教育を行っている IB を高く評価し、2012 年度 4 月入学入試で、募集人員若干名で 4 学部 1 コース (理, 医 - 保健, 工, 農, MP コース) が IB スコア等の書類選考のみ (医-保健, MP コースは面接を課す) で可否を決める IB 入試を導入した。

表 3 IB 入試導入の変遷

年度	4 月入学	10 月入学
2012	理, 医 (保), 工, 農, MP コース	
2013	理, 医 (保), 工, 農, MP コース	MP コース
2014	理, 医 (保), 工, 環境理工, 農, MP コース	MP コース
2015	文, 教育, 法, 経済, 理, 医 (医), 医 (保), 歯, 薬, 工, 環境理工, 農, MP コース	MP コース

・医 (医) の募集人員は 3 名, その他は若干人。

表 3 は、本学の IB 入試導入後の入試状況の変遷だが、2013 年度入試で MP コースが募集人員若干人で 10 月入学の IB 入試を、2015 年度入試で全学部及び MP コースが 4 月入学の IB 入試を導入した。

表4の「条件付き合格者」とは、IBの最終試験の正式IBスコアが発行されるのを待つと、出願締め切りに間に合わないため、各IB校が評価した「IB最終スコアの見込み点」を提出させ、この点数で合格した者が条件付き合格者である。IBの発行する最終試験のIBスコアは、後日、本学が定めた期日までに提出させ、問題がなければ正式な合格者となる。

表4 IB入試の入試結果

年度	24春	25春	25秋	26春	26秋	27春	27秋	計
志	1	1	3	2	6	9	6	28
条			3	2	5	4	6	20
合	1	1	2	1	3	2	3	13
入	1	0	1	0	3	2	3	10

- ・志：志願者，条：条件付き合格者
- ・合：合格者，入：入学者

4 Language AにおけるJapanese A履修者の日本語第一言語（日本人）比率

本学で提供しているコースは、2017年から英語だけで履修し卒業できるコースを開設する予定だが、現時点では日本語コースだけであるので、日本語を第一言語（母語）としている生徒が学生募集のターゲットとなる。

グループ1のLanguage Aは、日本語を母語とする生徒のほとんどがJapanese Aを履修していると言われているが、実際はどうか、学校の設置区分別に特徴があるか見てみる。

表5 Japanese A履修者の日本語第一言語比率（人）

設置区分	11年生（G11）		12年生（G12）	
	計	日本人	計	日本人
一条校	71	70(98.6%)	41	41(100%)
IS	42	24(57.1%)	52	38(73.1%)

- ・日本国籍を持つ者を日本人とした。

・G11, G12は、一条校の高2, 高3にあたり、この2年間のコースでフルDPを取得する。

表5のG12を見ると、一条校とISは、Japanese Aの履修者はそれぞれ100%, 73%が日本語を第一言語（母語）としている。

このことより、現段階では日本語コースだけを持つ本学がIB校の生徒を受け入れる場合、HL, SLを問わずJapanese Aを履修しており、成績評価4点以上としておけば問題ないと思われる。

ではJapanese Bの履修者は学生募集の対象にならないのだろうか？

表6 Japanese B履修者の日本人の数 人

設置区分	G11		G12	
	日本人	その他	日本人	その他
一条校	9	0	5	8
IS	17	57	27	51

- ・日本国籍を持つ者を日本人とした。

表6を見ると、Japanese Bの履修者の中にある程度の割合で日本人がいる。彼らの属性は帰国子女等で、日本国籍は持っているが、海外での生活が長い等、何らかの理由でJapanese Aが履修できないとか、日本語が第一言語であるがLiteratureのレベルではないためにJapanese Bを履修している生徒である。

日本人と外国人を含めたJapanese Bを履修している生徒が本学の日本語コースの授業を履修できるか否かが問題だが、今回のアンケートでは、Japanese B履修者は、「日本語での日常生活に支障はないが、大学の日本語コースの授業の履修は難度が高い」、「Japanese BのHLで6点か7点を取るレベルでも、大学の日本語の語彙力を考慮すると、大学の日本語コース授業の履修は難しい」、逆に「Japanese BのHLで6点か7点を取るレベルであれば、大学の日本語コースの授業は履修可能」という意見に分かれた。

本学では、IB 校時代に Japanese A を履修していた学生に対して学部の専門科目の日本語アシスタント(AT)を配備しているくらいなので、Japanese B 履修者を募集対象に加えるのは困難であると考えます。

日本語力の確認であれば、入試で面接や日本語の小論文等を課せば、Japanese B 履修者の日本語力を確認できるであろうが、できるだけ IBO の成績評価を信頼し、面接等は課さないというのが本学の方針なので Japanese B 履修者を出願資格者から外している。

但し例外的に、教育、医（医）、医（保）、歯は、面接を課している。

5 本学の 4 月入学 IB 入試出願要件

4 月入学 IB 入試を行っている全学部・MP コース共通の出願要件は、「Language A を Japanese 日本語により履修し（HL か SL は問わない）、成績評価が 4 以上の者」としており、その他の出願要件は、グループ 6 以外から 1 科目 HL で成績評価 4 以上を求めている募集単位が 10 学部・MP コース、理科の HL を 2 科目課し、成績評価 4 以上を求めている学部が 1 学部である。

現時点の本学の出願要件は、IB 校のカリキュラムの実態と合っているかどうか、理科について検証してみる。

表 7 理科 HL の開講状況 (校数)

開講科目数	一条校	IS
HL 3 科目	1	4
HL 2 科目	2	2
HL 1 科目	2	
HL 0 科目	1	

表 7 を見ると、一条校、IS 校が理科 HL を開講している科目数は 2 科目以上が多く、理科 HL を 2 科目課し、要求スコアを 4 点以上にすることは、出願要件としては差支えないように

見える。

しかし、日本人の IB 校生はフル DP 取得に必要な HL3 科目のうち 1 科目を Japanese A で履修する傾向が強いので、残りの HL の科目で理科を 2 科目指定し、いずれも成績評価 4 点以上を要求するのはかなり厳しいようである。

従って、理系の学部が理科の 2 科目履修を要求する場合、1 科目は HL、もう 1 科目は SL にしておく必要があるだろう。

本学の理科の HL2 科目を指定し、成績評価 4 以上としている学部は、2016 年度 4 月入学入試から出願要件を、物理、生物から 1 科目及び化学及び数学（うち 1 科目は HL 成績評価 4 以上、他の 2 科目は SL 成績評価 5 以上又は HL 成績評価 3 以上）に緩和した。

6 フル DP ではない IB Certificate の生徒に出願資格を与えるか否か

前記 2 で掲げた基準を一つでも満たさなければ、いくら 24 点以上得点をしてもフル DP は取得できない。IB Certificate とは、フル DP の条件には合致しなかったが、IB のいくつかの科目で成績証明書を取得している生徒のことである。その中には、各科目 7 点満点中高得点を取っている生徒もいる。

IB Certificate の生徒を本学の学生募集のターゲットに加えるか否かについては、そもそも IB 入試を取り入れた経緯、前記 3 に遡って考える必要があるだろう。

IB の価値は、表 1 The IB mission statement (IB の理念) と表 2 The IB Learner Profile (IB の学習者像) に言い尽くされているが、本学がフル DP 取得の生徒に期待するのは、「主体性・リーダーシップ」、「高度な自己管理能力・時間管理能力」、「批評的・批判的思考力」、「分析的思考力」、「創造的思考力」、「異文化に対する理解と思考の柔軟性」、「コミュニケーション力」、「プレゼンテーション力」、「語学力」等々を身につけていることであるので、まず IB が認定したフル DP を取得した生徒を最優

先で学生募集の対象としている。

IB Certificate の生徒には、最後までフル DP を目指していたが最終試験でフル DP の基準を満たせず認定されなかった生徒や、最初からフル DP を目指していない生徒等がいる。

海外にはカナダのブリティッシュコロンビア大学 (UBC) のように、IB Certificate でも、高校の卒業証明書と学部が指定した科目を履修しており、IB スコアの要件を満たしていれば出願できる大学もあるが、本学はまだ IB 入試を始めたばかりで十分なエビデンスを持ち合わせていないので、フル DP と IB Certificate の生徒像の比較研究を行っていき、今後の IB 入試の拡大につなげていく必要がある。

7 EE を出願書類に加えるか否か

IB 校の教員は、EE を出願書類に加えることについて、下記の理由で賛成意見が多かった。賛成意見、条件付き賛成、反対意見の例を掲載する。

【賛成意見】

- ・米国リベラルアーツの大学やアイビーリーグの大学は、論文サンプルの提出を求めることがあるので、それに類するものと考えことはできる。その場合、EE を提出しなさいという指定ではなく、出願分野に関連した自分の実績を提示できる作品等を提出しなさいとなっている。

EE Sample に限らず、国語論文サンプル、Historical Investigation, Math Project, Science Lab report, TOK 論文等々、提出可能な作品は多いので、学部が出願者の何を審査したいのかによって提出物を決めた方が、出願者の様子を的確に審査できると思う。

- ・生徒が何に関心を持っていたのか、どのくらいの内容のものを書いたのかということがわかるので、EE を提出させるのは有効だと思う。生徒も相当力を入れて書いているので、

読んでもらうことを望んでいるのではないだろうか。

- ・自主的にどれくらい取り組んだのかを見るには有効だと思う。但し、理系志望の生徒が必ずしも理系の科目で EE に取り組むとは限らない。

【条件付き賛成意見】

- ・IB からの正式な評価が出たあとであれば (EE の提出は) 問題ないと思う。
- ・EE は、大学で論文を書くための準備だ。例えば、EE が人間として素晴らしい価値観を示すものであっても、IB が求める論文としての構成やデータの扱い方が評価基準に沿っていなければ、全く点数がもらえない。

論文を書く力を審査基準に加えたい等、EE の評価基準が大学にとって求めているものであれば、(EE 提出を) 加えることに価値があると思うが、価値があるかどうかは、EE で何を大学が見たいのかによると思う。

また、EE の提出を加えることを検討する場合、EE の評価基準を大学がしっかりと把握することが必要だと思う。

【否定的意見】

- ・EE を加えるというのは、提出した EE の成績を合否の基準にするということでしょうか。それとも IB に提出する EE を貴学にも提出するというのでしょうか。IB の試験結果をもとに選考するのであれば、EE を出願書類に加える必要はないと思う。
- ・EE の提出を追加することで、IB Certificate の生徒が貴学に出願する可能性を消してしまうかもしれない。

IB 最終試験の成績評価には EE の評価点が含まれている。EE だけを取り上げて、IB の出す最終スコアとは別に本学が EE を評価する

ということは、EEの配点比率を大きくしたということになる。

IBスコアを含む提出書類だけ（教育・医・歯は面接も課す）で合否を決めるのがIB入試だが、IBスコアは信頼しているものの、一人ひとりの生徒がDPの2年間で何に関心を持ち、どのような活動にどれだけ努力し、どのような成果を出したのかという生徒像も何らかの手段で把握しておきたいものだ。

IB校の教員の多くが出願者を審査するために出願書類にEEを加えることに賛成している。

各学部・コースが「出願者の何を審査したいのか」を明確に持った上で、出願者がDPの2年間で成し遂げた成果を示せる（EEに限らない）成果物を提出させることは意義があるように思う。

8 IB校の進路指導

IB校が対応する大学入試は、進学先が国内の大学と国外の大学、秋入学の入試と春入学の入試、入試方法がIB入試、日本の大学のAO入試、一般入試等々多岐に渡っている。

IB校の進路指導は、カレッジカウンセラー（スクールカウンセラー）とDPコーディネーターが中心になって年間行事を立てて計画的に行われている。それに加え、進学先が日本国内であれば日本人教師が付いて指導し、海外の大学は国別（地域別）に入試方法が異なるため外国人教師が付いて指導し、更にクラス担任やエッセイ指導の教員等が加わって手厚くサポートしている。

一条校、ISの進路指導事例を紹介する。

【一条校の例】

- ・国内の大学の一般入試と国内外の大学のIB入試の進路説明会を開催している。
- ・毎年秋に、生徒・保護者を引率してカレッジフェアに複数回参加しているが、国内外の大学の校内説明会・個別相談会も受け付けてい

る。

- ・卒業生が学校に戻ってきて大学生活の話を
するQ&Aセッションを開催している。
→その後、個別にメールやスカイプで情報
交換をする生徒もいる。
- ・G9, G10¹⁾: G9, G10でPSAT, G10で
TOEFLiBTを初めて受験させ、受験の基本
情報を提供し、準備させる。
- ・G11: 必要に応じてTOEFLやSATの受験
を勧める。
- ・G12: 頻繁に進路面接を実施している。

【国内のISの例】

- ・G8²⁾: キャリアについて、また大学がそれ
どのように役立つのかを学んでいる。
- ・G9: キャリアとは何か、なぜ大学に行くのか、
各国の大学のしくみについて学んでいる。
- ・G10: 各国の大学のしくみについて、特にア
メリカとイギリスの大学のしくみの違いに
ついて詳しく学んでいる。
- ・G11: 具体的な大学選び、願書出願につい
ての説明、志望理由書指導、生徒と保護者に対
する個別の進路指導をしている。
- ・G12: 校内で各大学による入試説明会を実施
し、生徒や保護者が直接大学から情報を得る
機会を提供し、且つ、カレッジフェアに参加
させる等して生徒自身で調べるよう促して
いる。
そのような行事を入れながら、個別の進路相
談と出願のサポートとそのフォローアップ
を行っている。

9 生徒たちの進路選択行動と大学の入試広報

生徒は、各校の進路指導行事に則って自分のキャリアについて考え、志望大学を選択し絞り込み、出願に向けた行動を起こす。

IB校の進路指導スケジュールは、国内外の大学の入試スケジュールに合わせて組み立てられているので、生徒が志望校・出願校を決める時期は概ね同じになると考えられる。

IB校では、校内で大学の入試説明会・個別相談会を実施しているが、大学側が入試説明会等の入試広報を実施させていただく時期は、生徒が志望校・出願校リストを作成する前でなければならない。一条校もISもG11の終わりからG12の初めにかけて志望校・出願校を決定しているようなので、それ以前に入試説明会等を実施させていただく必要がある。

今年度、文部科学省の大学教育改革加速プログラム(テーマⅢ 入試改革)事業に採択され、本学が知識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換するというメッセージを書いたポスターを作成しIB校に送付したところ、かなりの確率で校内の廊下や教員室の壁に貼ってくださっていた。

IB校を1校1校訪問して入試説明会を開催するのもよいが、世界中のIB校を訪問することはできないので、国内の大学のほとんどがIB入試を行っていない今の時期は、本学がIB入試を行っているということの認知度が低いであろうから、まずIB校の生徒に本学がIB入試を行っていることを周知することが重要で、そのためにはIB入試を実施していることを告知するためのポスター等を作成し、世界中のJapanese Aを開講しているIB校にだけでも送付しておくべきではないかと考える。

生徒の志望校・出願校決定のプロセスを、一条校、ISの生徒の事例を記しておく。

【一条校の例】

- ・G10：だいたいの方向性を決める。
国内の大学の一般入試を考えるのであれば、受験科目を意識して家庭学習をする。
- ・G10後半：文系理系の方向性を決定し、DPの科目を決めるため、各大学・学部でどのような科目要件とIBスコア要件があるのかを確認する。
- ・G11後半まで：大学と学部を予備的に決める。
- ・G12春：志望大学・学部を決定する。
- ・G12の1学期末試験後：期末試験が最終IB

試験に向けての準備試験の役割を果たすため、このスコアでどの程度の仕上がり具合かを確認しながら最終出願校を決定していく。海外の大学は、早くて10、11月出願で(これは珍しいが)、大半は12月後半から1月にかけて出願している。従って、G12の夏あたりには、だいたいの出願校リストを作成している。

その後のDPの仕上がり具合とその他のテストスコアを見ながら、出願校を絞っていく。

【ISの例】

- ・G11の終わりからG12に進学する夏休み：だいたいの生徒が出願校リストを作成する。
- ・G12の9月：イギリス・アメリカの大学への出願が始まり、出願のピークは12月から1月にかけて。
合否結果がわかるまで数週間から数か月かかるが、早い生徒で12月、多くの生徒が3月から4月にかけて合否結果を受け取り、5月頃までにはほとんどの生徒の進学先が決まる。

10 まとめ

2014年12月の中教審答申(高大接続・入試改革答申)で示された教育改革は、明治以来の教育改革を目指していると言われ、2020年度には大きな入試改革がなされようとしている。

本学では、知識偏重型入試から多面的・総合的評価型入試に転換していくために、IBの教育内容や教育成果等を高く評価し、募集定員若干人ではあるが2015年4月入学入試でIB入試を全学で取り入れた。

本学にはIB入試で入学した学生が10名いるが、彼らは、「グローバル人材育成特別コース」に優先的に在籍しており、そのコースの学生とともに学外での活躍は目覚ましいものがあるのでその一例を紹介する。

【IB 校出身学生の活動事例】

- ・我が国が経済協力開発機構（OECD）に加盟して50周年となる2014年に、OECD Student Ambassador の全国8大学の一つに選ばれ、OECD の意識度調査や広報ポスターを作成し、一年を通じてワークショップや講演会の開催をしてきた。
- ・国際協力機構（JICA）の国際フィールド・スタディプログラムで、18日間ベトナムの現地調査を行い、発展途上国の現状や問題点を多角的に見つめ、ODA 等の現場体験をした。

但し、IB 入試で入学してきた学生は、学部の科目の専門用語で日本語のアシスタントを付ける必要がある等、全てが順調というわけではない。

今後、IB 入試で入学した学生の学修面、生活面、卒業後の進路面等の追跡調査・検証を重ね、個々の問題に対応していきながら、募集定員を増やし定員化していき、更には、秋入学のIB 入試の実施学部の枠も広げていきたいと考えている。

謝辞

本研究は、文部科学省 大学教育改革加速プログラム（テーマⅢ 入試改革）事業により実施された。

注

- 1)、2) G8, G9, G10 は、それぞれ一条校の中2, 中3, 高1にあたる。

参考文献

- 相原憲昭・岩崎久美子編著（2007）.『国際バカロレア 世界が認める卓越した教育プログラム』明石書店
- 田口雅子（2012）.『国際バカロレア 世界トップの教育への切符』松柏社
- 坪谷ニューエル郁子（2014）. 大学教育改革加速プログラム 岡山大学キックオフシンポ

ジウム配布資料

岡山大学 2015 年 4 月入学 国際バカロレア（AO 入試）学生募集要項

IBO の HP. <<http://www.ibo.org/en/>>

UBC の IB Certificate の出願要件.

<<http://you.ubc.ca/admissions/international-baccalaureate/>>